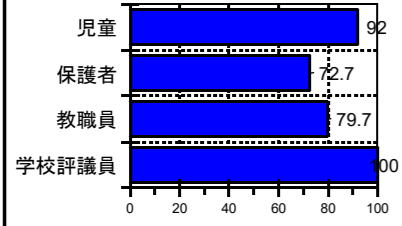


平成30年度 学校評価総括表 課題と改善策

「確かな学力」の育成

わかる授業 総合評価：A (82.1)

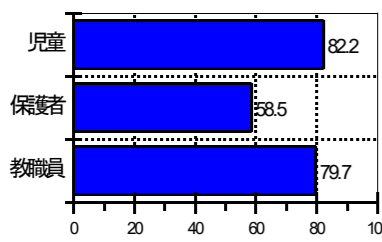


※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

- 研究授業を実施し、授業改善に取り組むとともに、主体的な学習の進め方について研修を行った。
- 算数科を中心に、ノート指導に取り組む、自力解決の記載を大切にしよう努めた。
- 全ての学年でチームティーチングを実施し、個々がわかる楽しさを実感できる授業づくりについて実践追究した。

☆「聞く」ことに焦点を当て、児童が相互に話を聞き合うよう、それぞれの発達段階に応じた指導を行っている。この実践を積み重ね、継続していくことで全体での定着を目指す。

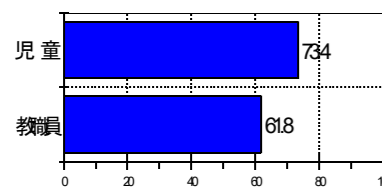
基礎・基本の定着 総合評価：A (76.4)



- 今年度も、本校独自に行っている「漢字検定・計算検定」を継続して実施した。合格者については、年度末に表彰した。
- 朝の活動時間で行っている「ぐんぐんタイム」で、漢字や計算のスキル学習や、4～6年生では「全国学力学習状況調査」、「徳島県ステップアップテスト」の解答スキルの向上に取り組んだ。

☆基礎基本の定着のために、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。☆朝の活動時間で行っている「ぐんぐんタイム」の有効な手立てを工夫していく。

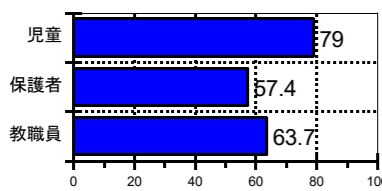
聴く・話す・表現力 総合評価：B (67.6)



- ペアやグループ学習を取り入れ、伝え合い、教え合う学習のために、ホワイトボードやICT機器の活用を継続的に行った。
- 「主体的・対話的で深い学び」を具現化するため、児童が主体的に問題解決に取り組む授業について理科の授業を核として実践を行った。

☆「主体的・対話的で深い学び」を常に念頭に置き、ペア学習やグループ学習から学級全体学習への流れを意識し、その過程で今以上に積極的に授業参加する児童を増やすべく、自分の考えを伝え合う場を提供する。☆コーチングの手法を模索し、児童のコミュニケーション能力の向上に努める。

学習習慣 総合評価：B (66.7)



※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

- 家庭学習強化月間として、学期に1回、学習時間チェックを行い、「学年×10分以上」の目標達成者を表彰した。
- 学校全体で読書タイムの時間を確保し、読書習慣の確立を図った。また、学期末には多読児童の表彰を行い、読書の推進をした。

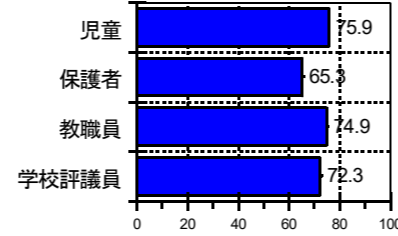
☆全校で取り組んでいる「学習規律」の徹底がまだ不十分であり、引き続き取り組む必要がある。☆算数科ノート、自主勉強ノートの指導充実を、さらに工夫していく。☆ノートの書き方のスタンダード化を図り、どの教科においても自分の意見をノートに書いて考えることが習慣化できるよう、書く時間を確保する。☆読書の習慣化を行う手立ての工夫改善を進める。

(A：73.3以上 B：73.3未満～66.7以上 C：66.7未満～50.0以上 D：50.0未満)

※各項目ごとに、回答者全員の評価のポイントの平均を、「(Aの個数×100+Bの個数×2/3×100+Cの個数×1/3×100)÷(A+B+C+D)」で算出し、項目の指標値とする。

「豊かな心」の育成

あいさつ・言葉遣い 総合評価：B (72.4)

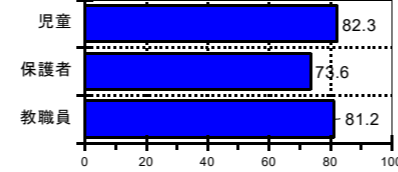


※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

- 高学年の児童を中心に行っている「あいさつ運動」が定着し、多くの児童が主体的に「あいさつ運動」に参加している。
- 毎月、朝会で「キラリさん紹介」を行い、全校児童へ善い行いの働きかけをした。☆遠くからでもあいさつをするという意識を涵養していく。
- ☆地域の方へ積極的にあいさつできるよう、教職員自らが取り組んでいくことで範を示す。

☆言葉遣いについては、各学級における日常指導での徹底を図りながら、全ての教育活動における言語活動の充実を進めていくことで対応を図っていく。

いじめのない温かな人間関係 総合評価：A (78.7)

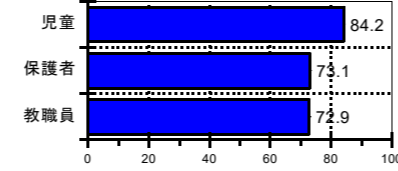


※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

- 保護者の「学校はいじめのない明るい学級づくりに取り組んでいる」という指標値が、昨年度より若干上昇したが、66.8と決して高い値ではなく、「いじめ防止」に対する積極的な取組をより広く周知していく必要がある。
- ☆全校の指導体制を整え、いじめ防止に取り組む、教育活動全体をおして温かい人間関係づくりに努め、自己肯定感を高揚する手立てを図っていく。

☆いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた継続的な取組をさらに充実させ、家庭と連携を図りながら、いじめ解消に向けた指導の徹底を図っていく。☆一人一人の児童理解を図り、適切な声かけを積極的に図ることができるよう、信頼関係や好ましい人間関係づくりに努力していく。☆教職員自身のコミュニケーション能力を校内研修等で高め、対話のキャッチボールができるよう取り組んでいく。

人権教育・特別支援教育 総合評価：A (74.8)

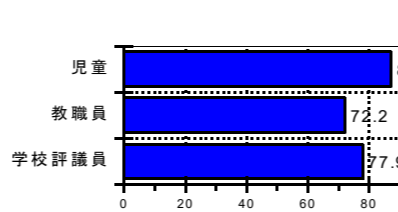


※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

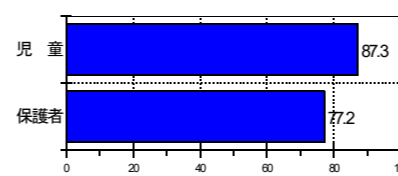
- 友達の善い行いを給食時「ハッピーレターコーナー」で紹介することで、読まれた文章の内容に拍手が起こるなど、良好な人間関係が構築されている。
- 児童一人一人の状況や能力に応じた個別の指導体制（内容及び方法）の改善を図り、特別支援教育のさらなる実践を推進していく必要がある。

☆差別の現実から学び、その思いや願いに深く共感し、系統性を重視した「地域から学ぶ」という同和問題を核とした人権学習の充実を図っていく。☆定期的且つ必要に応じて校内委員会を実施し、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援・合理的配慮について、共通理解のもと学校全体で取り組んでいく。

生徒指導 総合評価：A (77.9) 家庭生活 総合評価：A (81.1)



※○が評価所見, ☆が次年度への改善策



- 定期的に、また必要に応じて生徒指導情報交換会等の機会をつくり、全教職員で共通理解を図ること、教師間の連携を密にした早期発見・早期対応にあたった。
- ☆基本的な生活習慣については、学年の発達段階に応じた指導を継続し、家庭との連携を密にして根気強く取り組んでいく。
- ☆保護者や地域、関係機関と連携を図り、子どもたちの生活の様子についての情報を迅速に把握、共有できるようにしていく。

☆家庭との連携を密に取りながら、担任だけでなく、全教職員でサポートできる支援体制づくりをさらに図っていく。

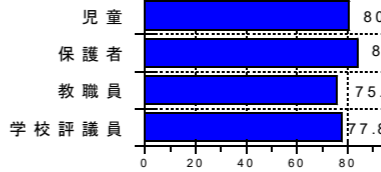
学校教育目標
 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる
 ―創造と信頼と協働による活力ある学校づくり―

めざす子ども像

- か…感謝の心をもつ子
- ち…目標（めあて）をもち、自ら学ぶ子
- こ…仲よくし、相手の立場になって考える子
- のび…伸び伸びと、明るく元気な子
- こころ…根気強く、最後までやり抜く子

「健やかな体」の育成

健康・体力 総合評価：A (79.6)



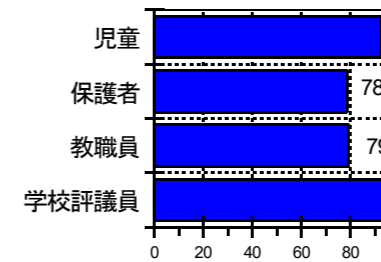
※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

- 児童の「元気いっぱい運動に取り組んでいる」という回答指標値は、昨年同様80%を越えることができた。
- 朝ごはんを食べて登校している児童は、指標値90%を上回る結果となり、保護者の協力の成果であると考えられる。
- 本校の課題である「給食を好き嫌いしたり、残したりしないで食べている」の指標値は、77.4%で昨年度より5.8%上昇した。食育セミナーや残食ゼロリンピックなどの取組が効果的に機能しているといえる。

○市や県のスポーツ関係行事に焦点を当て、スポーツ教室や子どもの体力向上支援事業、冬季には体力作りマラソン運動を業間に設定するなど、本校の課題である体力の向上をめざし、年間をおして計画的に取り組んだ。☆年間を通して体力作りを進めていくと同時に、県や市などで開催される様々な競技大会に参加できる児童を広く募り、運動習慣の確立を目指す。

安全・安心な学校づくり

安全・安心 総合評価：A (87.6)

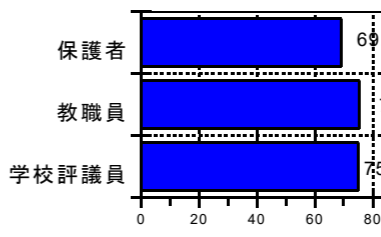


※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

- 防犯教室や交通安全教室、集団下校訓練、避難訓練等、子どもの安全を守るための行事を実施し、防犯・防災意識の高揚に努めた。
- ☆教職員における「報告・連絡・相談」の徹底と初期対応に最善を尽くすことで、多様な防犯・防災訓練を実施し、PDC Aサイクルに基づいたより実効性のある危機管理マニュアルの作成を図る。

保護者・地域との連携

P.T.A活動・情報提供・環境づくり 総合評価：B (69.8)



※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

- ☆P.T.A本部役員や常任委員会と対策を検討し、魅力ある懇談会や興味をもてるP.T.A行事が開催できるように前向きに取り組んでいく。
- ☆公民館やまちづくり協議会、青少年健全育成協議会、加同協などの地域団体や地域組織と連携をさらに密にし、地域コミュニティを充実していく。

信頼される学校づくりのために

- ◎学校の教育方針や活動を機会あるごとに児童・保護者・地域のみなさまへ発信するとともに、対象者に応じた発信の方法についても工夫する。
- ◎教職員一人一人の意欲が高まるような協働体制の醸成を図り、全教職員が学校経営に参画できる組織として、「チームで対応する力」の育成に取り組んでいく。
- ◎授業力を高めるために、「学び合う集団」として機能するように、教職員の力量形成を促す研修の機会を積極的に設けていく。
- ◎保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら、児童の実態にあった教育を推進していく。
- ◎情報や要望の収集に努めるとともに、迅速な対応を心がける。